

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
身体障害作業療法治療学		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
小沢 健一	C305	k-rozawa		水曜日 10:30~12:00	
授業の目的・概要	<p>身体機能の障害に関する「基礎作業学」や「作業療法評価学」で学んだ関連事項をもとに、作業療法の特性を活かした治療・指導・援助の方法を学習する。</p> <p>脳血管障害をはじめ、整形外科疾患、神経内科疾患、内部疾患など幅広い疾患に対する作業療法の実際の知識を身に付けることを目的とする。講義は教科書を中心に進め今までの学習から総合的に対象者をとらえ治療・指導・援助の方法を導き出せるようになるための知識や方法を習得できるように教授していく。講義終了後は確認テストを行い理解の定着をはかる。</p>				
授業形式・方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 対面授業  <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型)  <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習  <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技</p> <p><input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート  <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク  <input checked="" type="checkbox"/> その他 (講義中に随時質疑応答し進める)</p>				
学習上の助言	<p>臨床場面では、治療・指導・援助が客観的に根拠を持ってなされなければならない。そのため身体障害分野にかかわる各疾患を十分に理解しておかなければ適切な治療・指導・援助が導き出せない。臨床医学の理解に自信のない学生は早めに質問をすること。</p>				
教科書	標準作業療法学 専門分野「身体機能作業療法学」第4版：山口昇・玉垣努 編，医学書院 / 2021				
参考書	特になし				
外部教材	日本作業療法士協作業療法ガイドライン、医学書院 Web 動画-身体機能作業療法学				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	作業療法士の位置づけ、アプローチ方法、診療報酬を説明できる。		HSU(2)、OT(1)、(2)		
②	作業療法の評価・治療プロセスの概要を説明できる。		HSU(2)、OT(2)、(3)		
③	病期・実施場所に応じた治療、指導、援助の概要を説明できる。		HSU(2)、OT(2)、(3)		
④	身体機能作業療法を実施できるようになるために治療原理を説明できる。		HSU(2)、OT(2)、(3)		
⑤	いくつかの疾患の病態を理解し作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を説明できる。		HSU(2)、OT(2)、(3)		
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	目的と方法および対象の基礎知識を学ぶ。	講義	事前に教科書 p6-16 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
2	評価・治療方式の枠組み、インフォームドコンセント、作業療法のプロセスを学ぶ。	講義	事前に教科書 p17-34 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
3	根拠に基づく実践、治療理論を学ぶ。	講義	事前に教科書 p34-37 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
4	リスク管理について学ぶ。	講義	事前に教科書 p37-49 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
5	病期・実施場所に応じた作業療法を学ぶ。	講義	事前に教科書 p50-58 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
6	ボディーメカニクスと運動制御・運動学習を学ぶ。	講義	事前に教科書 p62-76 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
7	関節可動域の維持・拡大、筋力と筋持久力の維持・増強について学ぶ。	講義	事前に教科書 p76-100 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
8	筋緊張異常と不随意運動、協調運動障害とその治療について学ぶ。	講義	事前に教科書 p101-127 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
9	感覚・知覚再教育について学ぶ。	講義	事前に教科書 p127-135 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
10	廃用症候群とその対応、物理療法の基礎を学ぶ。	講義	事前に教科書 p135-142、p157-172 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
11	摂食嚥下・喀痰吸引の基礎を学ぶ。	講義	事前に教科書 p142-156 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
12	神経筋疾患と神経変性疾患への治療を学ぶ。	講義	事前に教科書 p358-406 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
13	内部疾患(循環・呼吸器系の障害)への治療を学ぶ。	講義	事前に教科書 p408-443 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	
14	内部疾患(内部環境調節系の障害)への治療を学ぶ。	講義	事前に教科書 p408-457 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4	

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科】

15	悪性腫瘍（がん）への治療を学ぶ。	講義	事前に教科書 p460-479 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	4
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照			

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		90	0	0	0	10	100
総合 力 指 標	知識・技術力	80	0	0	0	10	90
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	学期末の定期試験(筆記試験)を実施して評価する。(90%) 試験は授業で学んだ教科書、資料等に基づく問題を出題し、理解度を問う。 問題(回答)形式は、記述・穴埋め・選択式である。	試験は各自に返却し、解説する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	講義終了後に行う確認テストを、評価対象とする。(10%)	テストを終了後、課題返却により解説していく。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	担当教員は作業療法士として30年以上の臨床経験がある。
実践的授業の内容	臨床における最新情報とともに、その専門性を生かして学生に教授する。
そ の 他	授業時には課題ダウンロードや動画視聴などがあるので、通信容量制限がある場合には通信量に十分注意すること。 講義終了後、Microsoft Forms を使用し、確認テストを行う。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によりシラバスの変更がありうる可能性がある。